総合科学部後援会の設立について

総合科学部後援会が平成十二年四月一日付けで、在学生の保護者及び学部教職員の大きな期待のもとに設立されました。

後援会設立の趣旨は、①本学部の特色ある教育の推進 ②学生サービスの拡充 ③保護者への広報活動、などを積極的に進め、総合科学部の調和ある発展を図りたいとの強い要望によるものです。

この趣旨に対して、多くの保護者並びに本学部関係者の方からご賛同を頂きました。

昨年の九月三十日には第一回の総会を本学部で開催し、会則、役員、事業計画等が承認されました。

それでは会則の概要について説明しましょう。

1　会則は、後援会設立の趣旨に沿って、その目的を本学部における円滑な教育活動を支援し、併せて会員相互の理解と協力の維持を図ることとしています。

2　この目的を達成するために、次の事業を行うことが掲げられています。

① 総合科学部に在籍する学部学生及び大学院生の教育、課外活動、就職指導等の支援事業

② 国際交流の円滑な運営のための支援事業

③ 教育研究活動に関する会員向け広報活動

④ その他本会の目的達成のための事業

3　会員は、本学部に在学する学生並びに本学所属の教官の指導を受ける大学院生の保護者等で、この入会者を保護者会員と言います。また、保護者会員以外で、この趣旨に賛同された入会者を賛助会員と言います。平成十三年一月現在の会員数は、次のとおりです。

① 保護者会員　二五三名

② 賛助会員　四名

4　会費は、入会時に一回のみ納めて頂くこととしています。金額は次のとおりです。

① 保護者会員　一〇、〇〇〇円

② 賛助会員　一〇、〇〇〇円以上

5　総会は、原則として毎年一回開催することとしています。

6　後援会には、次の役員を置き、必要なときに役員会を開催します。

① 会　長　一名

② 副会長　一名

③ 幹　事　若干名

④ 監　事　二名

なお、役員の任期は一年で、再任を妨げないこととしています。

7　後援会の事業等に必要な経費は、会費と寄付金が充てられます。

次に、平成十二年度の事業計画の概要について説明しましょう。

1　学生の教育、課外活動、就職指導等の支援

① 学生の職業適性診断実施の助成

② 就職ガイダンス等実施の助成

③卒業記念品

2　国際交流関係の支援

① 学生の留学経費の助成

② 留学生交流会等の助成

3　会員向け広報活動等

①広報誌等の刊行

②保護者との修学相談

現在、この事業計画に基づき各種の事業が実施され、学生及び保護者から評価をいただいています。これからも後援会の趣旨に沿った事業を展開し、学部・大学院教育及び学生サービス等に貢献できればと考えています。

ただ、後援会に問題がないわけではありません。例えば現在の保護者会員は、在学生の約二十五％です。会員数が少ないと言うことは事業の展開に大きな制約を受けます。是非とも後援会の趣旨に賛同いただき、お一人でも多くの方に入会をお願いしたいと思います。

なお、入会案内は、在学生の保護者全員にお送りしています。また、入会はいつでも受け付けています。

提案箱の設置について

すでにお気付きの方もおられると思いますが、総合科学部事務棟一階に提案箱を設置しています。皆さんから「今、何故、提案箱なのか？」、「何を提案するんですか？」、「提案はどのように反映されるんですか？」、「提案者のプライバシーは守られるんですか？」などの質問が飛んできそうです。

総合科学部では今、学部教育の改革、改善のため、従来と違った入試による学生の受け入れや、新教育プログラムによる教育システムの導入など、これからの教育の方向性を見据えた取り組みが行われ、学内外から高い評価を受けています。更に、大学院改革として、本学部独自の研究科の創設等が精力的に検討されています。また、学部と学生保護者との交流を図る総合科学部後援会が設置されるなど、学部運営の全般について、調和ある発展を目指して努力がなされています。しかし、これらの改革、改善は、それを享受する学生を含めた構成員の方からの意見、要望がフィードバックされ、絶えず改善等が行われなければ、調和のとれた正しい方向への発展は期待できません。

ご提案いただいた意見等は、検討のうえ改善等に反映させます。また、提案者の氏名及び内容は、ご本人の承諾がある場合の外は公表しません。

日頃、学部のことでお気付きのことがあれば何でも結構です。ご意見、ご要望をお聞かせくださいますよう、ご協力をお願いいたします。

総合科学部長

「提案箱」設置場所（事務棟１階ラウンジ）

マレーシアでの留学体験記

社会科学コース　09　横山　史

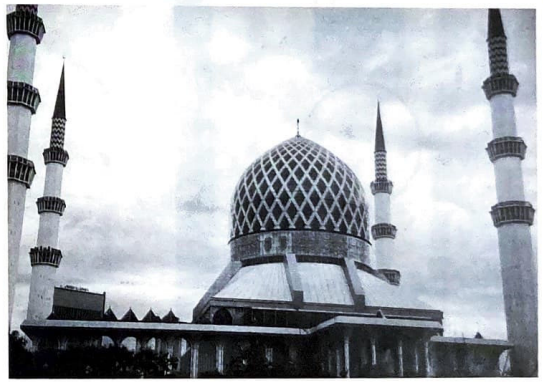
私は大学三年次の一年間、短期交換留学プログラムを利用してマレーシアのマラヤ大学に留学した。専攻の開発学をまさに現在目覚ましい発展過程にある国での生活を通じて肌で感じてみたい、そして多民族が共存する実態を覗いてみたいという気持ちが、私がマレーシアを留学先として選んだ理由であった。

しかし出発前から覚悟していたとはいえ、留学先では様々な困難が待ち受けていた。まず学習面では、本来ならば学期が始まる前にマレー語集中講座を受けられるのだが、ビザの都合で出発が遅れたため、いきなりマレー語で行われる講義を受けなければならなくなった。当時の私のマレー語は簡単な挨拶や単語を少し覚えた程度だったので、学問用語が頻出する講義を理解することは不可能だった。それでも単位を取って帰りたいと思い、講義を録音して何度も聞いたり友達にノートを借りたり教授の部屋を頻繁に訪ねて質問したりと必死だった。そして教授や友人の協力と文献が英語だったことも幸いして、なんとか皆と同じように試験を受けることができた。

さらに生活面に及ぶとバスは時間通りに動かないし、停電や断水も頻発する。「郷に入れば郷に従え」で積極的に現地の文化を学ぼうとする人並み以上の好奇心と適応力を自負していた私も、何度となく怒ったり弱音を吐いたりした。しかし私の中の常識は所詮日本での常識である。滞在に慣れた頃には、効率を重視する姿勢を捨て「まあどうにかなるさ」という心構えで生活する術を身に付けていた。さらに悩まされたのは手続きの関連だ。数週間前に出した書類がまだ処理されていなかったり、幾つかの事務所をたらい回しにされたりと理不尽な対応が多かったが、根気強く交渉すれば最後には受け入れられた。値踏み交渉などもそうだが、日本では安心して受身でいたことも自分で責任を持って主張することは、疲れるが生きているという実感が湧いてくる。

このような状況に自分を置いたことで、不可能に思えることにも挑戦したり少々のことでは動じない強さが身に付いたような気がする。日本とほぼ隔絶された一年間を送ったことも、自己を見つめ直す上でよい経験になった。そしてもちろん困難なこと以上に多くの素晴らしい体験をした。深い友情を育めたこと、マレーシアの微妙な民族感情を理解できたこと、おいしい果物や料理を堪能できたこと、国内や周辺諸国を旅行できたことなど楽しい思い出はきりがない。

広大は多くの大学と交換留学協定を結んでいるので、皆さんも大学生活の一年を海外で過ごしてみるのはいかがであろうか。最後に私が今回貴重な経験ができたのは、浜渦先生をはじめとする多くの方々のお蔭であることにこの場を借りて深く感謝致します。



フィリピン滞在記

社会科学コース　08　小泊　瑠美子

今年九月に無事大学を卒業し四月の就職までゆっくりしよう（生活費も安いし）ということで、現在（二〇〇／十二）マニラに滞在しています。こちらでは、日本NGOが資金的なサポートをしている現地NGOに身を寄せていてアパートのような事務所にフィリピン人日本人三人ずつで暮しています。三度目の来比になりますが今回は英語の勉強を主な目的として滞在しているので一日おきに語学学校に通っています。　マンツーマンで五〇分×二。本来はシスターやプリーストのための学校なので授業料はリーズナブル。一コマ一七〇ペソ（一P＝二・三円）。フィリピン人独特の訛が気にならなければ最も安く英語を学べる環境だと思います。これはおススメ。日本人以外では韓国人が多く、噂にたがわない韓国社会の英語熱を感じます。日本人は大別すると、NGO活動に来ている人かUP（University Of The Philippines）の交換留学生。先々UPで勉強したいと思う人にはよい情報収集の場にもなること間違いなし。今はエストラダ大統領の弾劾裁判中。日本の友人から私の安否を気遣うメールが届くこともありますが、こちらではすでにエラップは笑いのネタになっていて（ネタ本が三集くらいまで出ているらしい）シリアスな雰囲気は今のところありません。ラリーさえも学校を休む口実になるので喜んでいる人も。きっとクリスマスで（ここはカトリック教国）それどころではないのでしょう。今日もどこからかカラオケパーティーの歌声が大音量で聞こえてきます。とはいえ昨年私がいたころと比べペソがかなり落ちていることを見ても（一P＝三〜三・五円→二・三円）笑い事ではない、でもしょうがない・・・というのがフィリピン人中流階級の本音のようです。私個人としてはペソの価値が下がればそれだけ生活しやすいのですが貧富の格差を日常のように見るにつけ、また同居しているフィリピン人とディスカッションをするにつけ問題の根深さを思い知ります。

さて、私が住んでいるNGOではいつでも日本人学生の居候を歓迎？しています。スタッフの一人であるハリエットにどのような学生にきてほしいかインタビューしてみました。（本当に誰でもいいのか不安だったので）Those who are interested in having a good relationship with Asian people based on trust and equality とのこと。百聞は一見にしかず。まずは気負わず来てみては？彼らは問題を解決するためには長い長い時間がかかることを分かっているし、そのための近道は結局平等意識にもとづく個人と個人の結びつきであると考えているようです。興味のある人で大気汚染・交通渋滞・店員の愛想の悪さに耐えられる人、モラトリアム日本人学生を見たい人は私のほうまでメールを下さい。

〈k_rumiko@hotmail.com〉

新任教官自己紹介

大村 尚（環境共生科学プログラム）

この度、助手として着任しました大村です。出身は栃木県です。私は平成元年度に総合科学部に入学し、二年間の社会人生活を経て、今年三月に本学で学位を取得しました。紆余曲折ありましたが、よもや母校に就職するとは夢にも思いませんでした。専門は化学生態学で、蝶の成虫を主な材料にしています。フィールドワークを楽しみながら、化学・生理学・生態学を駆使して自然を眺めていきたいと思います。最近の趣味はジョギングです。今年はフェニックス駅伝学部長杯が創設されました。学生のみなさん、是非一緒に走りましょう。

読者からの声

「もうひとつの卒業論文」

09　鈴木浩司

今回の飛翔は二つの節目を迎えています。六〇号突入、そして二十一世紀最初の発行。大きな節目を迎え、きっと編集委員の皆さんは飛翔の過去を振り返り、未来を模索していることと思われます。今後も読みごたえのある特集づくりに励んでいただきたいものです。

さて、この飛翔が発行される時期は私にとって、総合科学部生から社会人への節目になります。そこで総合科学部での四年間で、私は一体何をしたのか振り返ってみました。しかし、総合科学部でしかできなかったことは「自然環境研究コースで環境のことを幅広く学んだ」という事だけでした。それ以外はアルバイト、駅伝やマラソン、学部新歓行事のスタッフ、車の免許取得など、総合科学部でなくてもどこの学部・大学ででもできたこと、別に大学にいなくてもできたことだらけでした。

中学・高校でクラブに受験勉強にと忙しすぎる日々を送っていたので、大学生活では親から離れてゆっくりとした時間を過ごそうと思っていました。その時間の使い方には後悔はしていません。たくさん時間があったのに、せっかく地元を離れて広島大学に来たのに、せっかく総合科学部という珍しい学部に所属したにも関わらず、広島大学総合科学部でしかできないことを全然しなかったということに後悔しているのです。

「ひろだいそうかはせかいにひとつ」。世界に一つの宝を、私たちは持ち腐れにしてしまっていいのでしょうか？せっかく広島大学に来たんだから、せっかく総合科学部にいるんだから、あなたも何か始めてみませんか？二年生以上の人でも遅くはありません。さもないと、きっと後悔しながら普通の大学生として卒業することになりますよ、私のように。

それは厳しいですな編集長。

う〜ん。

あ、その記事ボツな。

活力ある編集員募集！

編集後記

E-mail hisyo@hiroshima-u.ac.jp ←クリック！→ URL http://home.hiroshima-u.ac.jp/hisyo/

☆編集後記

山崎雄平
（学生編集委員長・一一生）

今回は新世紀初、そして記念すべき六十号ということで新しいチャレンジとして飛翔初の縦書きや、レイアウトも凝ってみました。しかし、原点を改めて見据えるため「総科とは何か」という飛翔の根幹をなしているとも言えるテーマで特集を組みました。

こんなことを偉そうに書いていますが、実は僕は編集長とは名ばかりで、実際仕事をしていたのは他の編集委員の皆で、僕なんか「え？いつの間にそんなことしてたの？」という始末。ですが、何とか四苦八苦しながらも六十号を無事発行することができました。

これも飛翔六十号を作るにあたって、取材に応じてくださった先生方、学生の方々、またその他にも手伝っていただいた方々、皆様のお陰です。ありがとうございました。そしてやはり、編集に一番携わっていた編集委員の皆さん、編集長がこんな頼りない僕にも関わらず最後まで仕事してくれてありがとう。

ねずみ男 ことのび太
（自然環境研究コース・一一生）

今回は仕事しましたよ。次回は知りませんが…。

竹田慶
（自然環境研究コース・一〇生）

一年生が優秀なので助かりました。楽しく仕事ができる雰囲気なのでやりやすかったです。皆さん本当にご苦労様でした。

滝波稚子（一二生）

前回は「締め切りは破るためにある」とか言って大変迷惑をかけたので「今回こそは！」と気合を入れていたはずなのに…。う～む。まあ所詮、私は私ってこと？次回こそは…ね。

島田基世（一二生）

今回は、前回よりも色んなことにチャレンジしてみたつもりです。大変だったけど、結構楽しかった。特にきやま商会への取材は、すごく興味深かったです。お忙しい中、熱く語ってくださった小林さん、ありがとうございました。

渡辺理紗（一二生）

六〇号から参戦です。働いたような、働かなかったような…。今回の六〇号のレイアウトは皆がんばったのでぜひ読んで下さい。

木島静香（一二生）

レイアウト技術は、一向に上達しないけど、パソコンのキーをたたくのが楽しくて仕方ない今日この頃…。

北岡未紗（一二生）

頑張っただけいいものができたし、時間をかけた分喜びも大きい、そして何より大変だった。

梶原恵輔（一二生）

パソコンで遊んでいたことが役に立ったかな？？変わったり変わらなかったり…（謎）

麓侑佳（一二生）

風任せ人任せ流れ任せ。パソコンとお友達になる日は遠いなあ・・・でも楽しかった。うん。

鮫島和美（学生副編集委員長）

ページ都合により、自粛。

編集委員

〈教官〉
山崎　昌廣（編集委員長）
柴田徹太郎　武田　紀子

〈学生〉
山崎　雄平（学生編集長）
鮫島　和美　大谷　貴重
堀部　正拓　村田圭太郎
竹田　慶　井手友紀子
梶原　恵輔　木島　静香
近藤　由紀　北岡　未紗
島田　基世　滝波　稚子
畑　優　麓　侑佳
松岡由見子　山下　純
大宅まり子　渡辺　理紗

名所案内

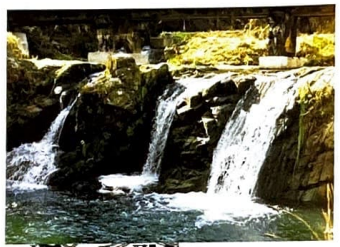
武士の滝

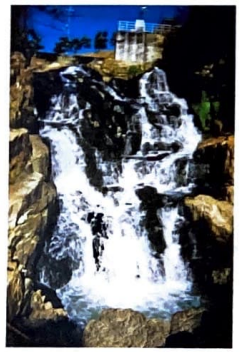
滝の高さは3・7㍍ですが、**滝壺はなんと5・2㍍**もあります。滝の前にある断層によって地層がもろくなったところを流れがえぐったので、こんなに深くなったそうです。

滝壺の水の色は、その深さのせいで、とてもきれいな青緑色をしています。水は澄んでいて、夏には泳ぎに来た人々でちょっとしたにぎわいを見せるようです。

辺りは静かで、水のせせらぎの音が心を落ち着かせてくれます。忙しい生活の中、暖かい日には、こんな場所で、午後の一時を過ごしてみるのはどうでしょうか。

さて、武士の滝の由来ですが、古文書によると、中世には「田口村仏師名」と呼ばれる地域があり仏師が武士に変化したとも考えられます。もしそうであればこの地域が仏師と関係あったことを示します。地名って興味深いですね。





菖蒲の滝

西条盆地を南流する黒瀬川にかかるこの滝は市内でも**最大級**の滝です。幅36㍍、高さ約15㍍。昭和初期までは、雄滝と雌滝に分かれていていましたが、雄滝には今は水が流れておらず、今の滝はいわゆる雌滝にあたります。

滝を真正面から見るには、岩づたいに下まで降りることが必要ですが、それもなかなか**スリル**があって楽しく、ちょっとした探検家の気分になれます。

この滝はある悲しい歴史を持っています。

平安時代末期、源三位頼政の妻、菖蒲の前は遺児とともに平氏の追っ手から逃げて、この滝のそばに隠れました。しかし遺児は病死し、滝の傍らに葬られました。菖蒲の悲しみは深く、

吾妻子や
千尋の滝のあればこそ
広き野原の　末を見るらん

と詠んだと伝えられています。